

吉崎 誠：藻類採集地案内：高知県室戸市室戸岬

Makoto YOSHIZAKI: Marine algae of the Cape Muroto, Kochi Pref.

四国から太平洋に突き出た岬が二つある。一つは西の足摺岬で、他は東の室戸岬である (Fig. 1)。足摺岬周辺の柏島、竜串、沖ノ島などからは多数の海藻採集の報告がある。これに対し室戸岬からは末廣(1933)、大野 (1970) による断片的な報告があるにすぎない。これらの報告によると室戸岬からは42種の海藻を知るのみである。筆者は1979年3月、8月および10月の3回にわたり、室戸岬で海藻採集を行ない、現在までに125種の生育を確認することができた。これらの中には分布上極めて興味のあるものが多数含まれている。今後、この海域の種類相がより一層明らかにされることを期待し、この地の海藻採集の紹介をしたい。室戸岬は高知県の南東端に位置し、標高150mほどの海岸段丘が太平洋に向かって突き出し、丘のふもとには起伏に富んだ岩礁地帯となっている。海に迫った丘にはアコウ、アオギリ、ウバメガシ、クワズイモ、リュウビンタイ、ヒトツバなどの暖地性植物が繁茂し、浜辺にはハマユウが植えられている。地元の案内板によると「室戸岬の地質はジュラ紀の室戸層で砂岩と頁岩が層になっているものと、砂岩や礫岩などから造成されていて、その間から火成岩の斑れい岩が噴出したもの

との2種類ある……」とあり、岬の先端部一帯がごつごつした岩盤と、巨大な岩がごろごろと積み重なった荒磯地帯である。

室戸岬バス停留所近くのエーベ釣舟着場から御蔵洞神明窟に至る約1kmの「乱礁遊歩道」のあたり一帯は海藻が豊富に生育している。潮間帯上部にはマルバアマノリ、オニアマノリ、フクロフノリ、マフノリ、潮間帯中部にはカイノリ、イボツノマタ、フクロノリ、潮間帯下部にはタマナシモク、ネジモク、低潮線下水深5m辺にはオニクサ、マクサ、キスイトカザシグサ、タマイタダキが多い。室戸岬御蔵洞神明窟近くの天狗岩辺は、巨大な岩が幾重にも積み重なる。岩と岩の間に潮が流れ込み、足元から波の音が聞こえてくる。岩と岩の間にもぐり込んで海面まで降り、薄暗いところにある潮だまりや岩肌を仔細に観察すると直径3~8mmの黄緑色のウミノタマ (*Halicystis*) や糸状のツクノイト (*Derbesia*) が見つかる。ホテル・ニュームロト裏から竜宮岩に至る一帯は、比較的平らで、ここにはイトゲノマユハキやイワズタ類が多い。夏期にはタマイタダキ、ユカリ、トサカノリなどを主とする打ちあげがあった。竜宮岩からエーベ釣舟着場に至る

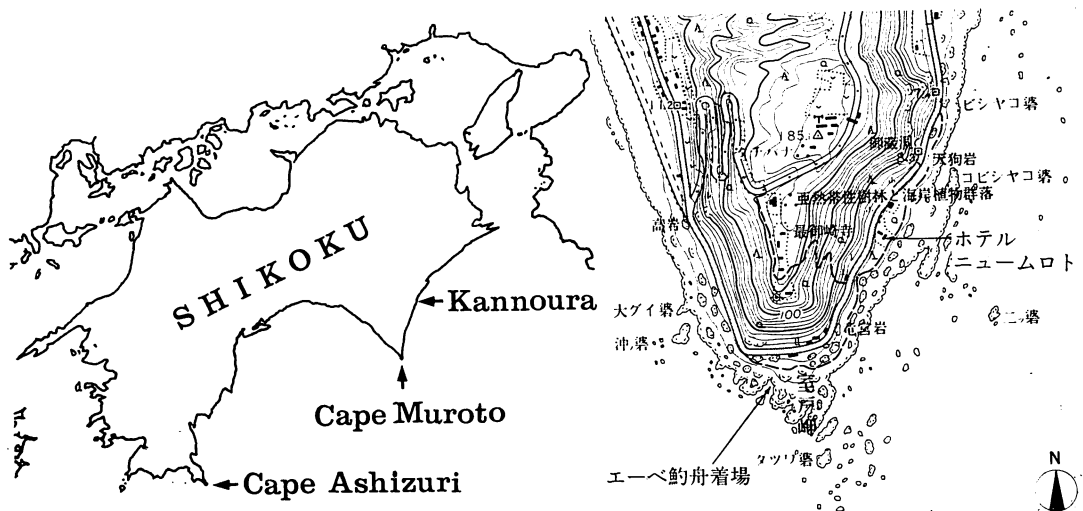


Fig. 1. Maps showing Shikoku (left) and the Cape Muroto (right: 1/25000)



Fig. 2. A costal landscape of the Cape Muroto.

室戸岬最南端部の岩はことごとく東に約 30° ほど傾いている。よく潮の干いた時に沖の岩に渡り、潮だまりを探して水をかき出し、丹念に観察すると、アミモヨウ、アミハ、タマゴバロニア、カシラザキなど、比較的深所に生育する海藻を採集することができる。

室戸岬で採集することの出来た主な種類を次に示す。

緑藻類：ヒトエグサ、ボタンアオサ、ボウアオノリ、ウスバアオノリ、オオンオグサ、フトジュズモ、ホソジュズモ、マルアミハ、アミモヨウ、ミドリゲ、アオモグサ、オオバロニア、タマゴバロニア、キッコウグサ、タカツキヅタ、スリコギヅタ、ヒメイワヅタ、フサイワヅタ、イトゲノマユハキ、ヒカリミル、タマミル、モツレミル、クサビガタハウチワ、ツノノイトの1種、ウミノタマの1種。

褐藻類：イソハンモン、カシラザキ、アミジグサ、サナダグサ、フクリンアミジ、シワヤハズ、ヘラヤハズ、シマオオギ、ウミウチワ、シワノカワ、ネバリモ、イロロ、カヤモノリ、フクロノリ、カゴメノリ、ハバノリ、ヤツマタモク、ネジモク、タマナンモク、イソモク、トゲモク。

紅藻類：ウシケノリ、フノリウシゲ、ホシノイト、オニアマノリ、マルバアマノリ、カモガシラノリ、ニセフサノリ、ソデガラミ、ガラガラ、ヒラガラガラ、タマイタダキ、ヒメテングサ、ハイテングサ、オニクサ、マクサ、ヒラクサ、オバクサ、ホソバナミノハナ、ナミノハナ、エツキイワノカワ、イシノハナ、ヒライボ、ウスカワカニノテ、フサカニノテ、ヘリトリカニノテ、ピリヒバ、タマモサズキ、フイリグサ、ムカデノリ、ヒラムカデ、タンパノリ、ツルツル、マタボウ、

キントキ、マツノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、クロトサカモドキ、ベニスナゴ、トゲキリンサイ、トサカノリ、キクトサカ、ユカリ、カギイバラノリ、イバラノリ、イソダンツウ、カバノリ、サイミ、フササイミ、カイノリ、スギノリ、イボツノマタ、フツツナギ、コスジフツツナギ、ワツナギソウ、キスイトグサ、ランゲリア、カザシグサ、キスイトカザシ、ケイギス、フトイギス、トゲイギス、アヤニシキ、キブリイトグサ、エンドウイトグサ、ユナ、モツレユナ、クロソゾ、ミツデソゾ、コブソゾ、ソゾノハナ、ジャバラノリ。

室戸岬は俗に台風銀座とも言われる。台風シーズンでなくとも強い風が吹く日が多く、海が少しでも荒れるとこの一帯での採集は困難になる。また風速 25 m をこえると室戸岬と甲ノ浦間の道路は通行止めになることがあると言う。甲ノ浦は室戸岬に比べると波の穏やかなところであり、海藻の植生も室戸岬とはずい分と異なる。興味あることに甲ノ浦周辺の潮間帯中部にごく普通に生育するイシゲ、ウミトラノオ、ヒジキは、室戸岬で相当に丹念に探したが見つかることが出来なかった。

交通 高知市から室戸岬方面へのバスは、国鉄高知駅から徒歩約5分、はりまや橋近くの堺町バス停留所から出る。堺町から牟岐行急行バスで室戸岬まで1時間半、国鉄牟岐駅から室戸岬までも急行バスで同じく1時間半かかる。室戸岬のバス停留所は中岡慎太郎の銅像前にある。バス停留所の周辺に5軒の旅館がある。

(東邦大学・理・生物)